

○淡黄あつもりさう (檜山庫三)

通常美シイ紫紅色ノ花ノ咲くあつもりさう＝稀＝淡黄花品ガアル。花蓋ノ脈マデ凡テ淡黄デアツテ、甲斐三ツ峠ノ産デアル。生育地＝於テハ紫紅花品トノ間＝色ノ連絡ヲ認メラレルガ、白花あつもりさうトノ間ニハ、コノ連絡ガ未ダ認メラレヌ様デアル。餘事ナガラコノしろばなあつもりさう＝紛ハシイ名＝しろばなあつもりガアル。後者ハ *Cypripedium guttatum* (var. *koreanum*) デ全然別者デアル。帝國大學植物園目錄(1887)＝アルしろばなあつもりさうハ何種ヲ指スモノカ筆者ニハ不明。

ほていあつもり＝モ淡黄花品 (*C. rebunense* KUDO) ガアルガ、花色ハ恐ラクあつもりさうノ淡黄花品ト同様デハナイカト思ハレルフシガアル。又中井博士ノオ説デハ大陸ノ *Cypripedium manchuricum* STAFF ハあつもりさうノ縁花品ノ由デアルガ、ソノ緑色ノ程度如何ニヨツテハ、ココニ云フうすきあつもりさう＝餘程類似シテ來ルモノト思ハレル。あつもりさうノ學名＝最近中井博士ハ *Cypripedium Thunbergii* BL. ヲ採用ザレタ。コノ古イ名ガアル＝モ拘ラズ、ROLFE ガ *C. speciosum* ヲ書イテ以來、多クノ人ガ ROLFE ノ名ヲ採用シタト云フノモ、*C. Thunbergii* ノ正體ガ余リ明瞭デナカツタ爲メト見エル。SCHLECHTER ガ *C. Thunbergii* ＝關シ、„Die Art ist entschieden noch aufzuklären und es wird Aufgabe der japanischen Sammler sein, die Frage der Verschiedenheit dieser Spezies von *C. speciosum* ROLFE zu lösen.” (in FEDDE, Repert. Beih. Bd. 4, p. 84.)—モツトモ SCHLECHTER ハ出典ヲ誤記シテキルガ—ト云ツテキルコトハ面白イ。

Cypripedium Thunbergii BLUME, Orch. Arch. Ind. p. 169 (1858); NAKAI in Journ. Jap. Bot. XVI. p. 63 (1940); MAKINO, Ill. Fl. Nipp. p. 705, t. 2114 (1940)—Syn. *Cypripedium speciosum* ROLFE in Kew Bull. p. 207 (1911).

forma **flavidum** HIYAMA, nov. f.

Floribus flavidis a typo diversa.

Nom. Jap. *Usuki-atumorisō*.

Hab. Honsyu: Prov. Kai. Mt. Mitutōge (leg. Kōzō HIYAMA, June 10, 1934— in Herb. Tokyo Sci. Mus.). (Kōzō HIYAMA)

○パラオ群島ノ椰子類其他ノ土名及ビ和名 (津山 尙)

我南洋群島ノ南西端＝位置シ、マレーシア＝最モ近クアツテ群島中デ一番ソノフローラノ豊富ナコトヲ誇リ顔ナル パラオ群島＝ハ、やし科植物モ最モ多ク、ソレ等ハ、*Cocos nucifera* LINNAEUS, *Areca Catechu* LINNAEUS, *Nypa fruticans* WURMB, *Glubiopsis palauensis* BECCARI, *Heterospatha palauensis* BECCARI, *Pseudopinanga insignis* BURRET, *Ponapea palauensis* KANEHIRA ノ各種デアル。コレラノ中、海岸ノ砂地生ノココヤシハ多ク栽培サレ、島民ノ生活上ニ必要缺クベカラザルモノデアル。びんろうノ果實ハ、島民ガ石灰粉ト きんまノ葉ト共ニ嚙ンデ、嗜好料トスル。コノモノハ時ニ野生化シタモノガ見ラレルニ過ギナイ。紅樹林帯ノ泥中ニ幹ヲ横ヘテ繁殖スル につばやし モ又時ニハ栽培サレ

ルコトガアリ、島民ノ家ノ屋根葺用トシテ、又手提籠等ヲ作ルノニ用ヒラレル。*Glubiopsis palauensis* ハパラオ獨特ノ石灰岩島ノ頂上ノ風通シノ良イ所デ、土等ハアマリナク、乾燥シタ所ニ生育スルヤヤ小型ノ椰子デ、花序ノ分枝ハ先端ノ方デハ分レズニ平行シテ垂下シ、橢圓形體ノ果實ヲツケル。*Heterospathe palauensis* ハ上ノ種ト大體同様ノ所ニ生エルガ、ヤヤ下方ノ風當リノ弱イ所ニ生育シ、ヨリ大型デアル。花序モ又大キク擴ガリ、先端ニ近イ所迄分枝シ、圓イ果實ヲツケル。*Pseudopinanga insignis* ハ陰濕ナ原生林中ニ生ジ、上ノ2者ノソレヨリ大型デ尖ツタ赤イ果實ヲ多數、羽狀ニ分枝シテ垂下スルヤヤ太目ノ花序ノ分枝ノ上ニ、二列ニツケル。最後ノ3者ハ何等用途ガナイ。*Ponapea palauensis* ハ最新シイ發見デアツテ、極ク稀ナモノト思ハレル。コノモノニ就テハココニ觸レナイデオク。以上ノ植物ノ學名ハ最近迄ニ種々遷變シタガ、今ハ上ノ様ニ落着シタ(金平亮三博士ノ「ミクロネシアノ椰子」其一、其二——本誌12卷9-10號ヲ参照)。サテ今ハ學名デナク、島民ガ如何ナル名前デコレラヲ呼ンデキルカラ調べテ表ニシテ見ヨウ。

- (1) *Cocos nucifera*: lius (W, K, 津), nius (金), aryûs (吉)
- (2) *Areca Catechu*: buoch, búch (W), poo-a-ak (M Cl), búóg (K), búu (津), bu (吉), bók (吉), アポーク (金)
- (3) *Nypa fruticans*: toéchel (W), toekel (Kub), tevégël (K), toyél (金), toyél (津), toyéhal (津), トエル (金)
- (4) *Glubiopsis palauensis*: chasebúch (W), gasebúóg (K), hesibouch (土), asb (金), esbú (津), アスポー (金), bugelangererak (Led)
- (5) *Heterospathe palauensis*: demailéi, demáilei (K), domaile (金), domairéi (津).
- (6) *Pseudopinanga insignis*: chebouch (W), gábóug (K), akaboek (金), akabök (津), ebóu (津), アカポーク (金)

[註. 太字ハ小生流ノ寫音デ標準トシテ定メタモノ、又ハソレニ一致シタ他ノ人ノ寫音。括弧中ハ引用シタ寫音ノ著者ヲ示ス。W: WALLESER (Palao Wörterbuch, 1913), K: KRAEMER (Palau in THILENIUS: Ergebnisse der Südsee-Expedition, II Ethnographie B. Mikronesien Bd. 3, 1929), KUB: KUBARY (Ethnographische Beiträge zur Kenntniss des Karolinen-Archipels, 1895) LED: LEDERMANN (in Beccari, Neue Palmen Micronesiens in ENGLER, Bot. Jahrb. 59, 1923), M Cl: McCLEUR (KRAEMERノ書ニヨル), 金: 金平亮三(南洋群島植物誌, 1933 及ビ An Enumeration of Micronesian Plants, 1935), 吉: 吉野 剛(南洋地方栽培植物——科學南洋 2卷, 3號, 1940), 土: 土方久功(南洋廳囑託、同氏ノ口ヨリ聞ク。), 津: 津山 尙(島民ノ口ヨリ聞ク。)]

コウシテ集メテ見ルト土名ノ寫音ハ各人各様デ、コノ中ノ何レガ最モ眞ニ近イモノデア
ルノカ取捨ニ困ルコトヲ發見スル。コノ様ナコトニナル原因ハ大體2通り考ヘラレル。第一ニハ、パラオ語ニハ無聲ノ子音ヤ、鼻音ガ多イノデ寫音ガ非常ニ困難デアルコトデア
ル。例ヘバ獨乙語ノ ch 音ニ似タ子音ニ就テ言フト、W ハ ch ト書キ、K ハ g ト書キ、KUB
ハ k ト書キ、金、津ハソレヲ全く聞キ落スカ又ハ k ト開イキル。第二ニハ、文法ニ關スル

コトデアル。パラオ語ニハ *i* ニ初マル名詞ハ一ツモナイ。ソシテ *a* ナル冠詞ガ大抵ノ名詞ノ前ニ付ケラレル。コノ 2 ツノコトヲ頭ニ入レテ讀ムト、一見何ノ關係モナイ様ニ見エル上ノ各ノ土名ノ間ニ連絡ガ附ク。例ヘバ (6) ノ *akaboek* カラ冠詞 *a* ヲトレバ *cheboúch*, *gäböug* ニナリ、コレヲ最初ノ子音ガ脱落スレバ *ebóu* ニナルコトガ判ル。パラオ語デハ濁音ハ完全デナイカラ *ch* ヲ *k* ト聞ク人ハ、當然又 *g* ト聞クコトガ出來ル。同様ニ (1) ノ *aryús* ハ *ryús* デアリ、*l* ト *r* ヲ區別シナイ人ニハ *lius* トノ差ガ無クナル。上ノ説明デ連絡ノ付カナイノハ (4) ノ *bugelangererak* (LED) ノミデアアル。コレハ或ハ聞キ間違ヒカ、又ハ極一部ノミデ行ハレテキル名稱デアラウト思ハレル。

コレ等デ判ル様ニ、土名ヲ正シク寫シ、統一シ方法デ表示スルコトハナカナカ困難ノ業デアアル。WALLESER ハ長クパラオニ滞在シタ宣教師デアアルガ、ソノ辭書ノ中デハ植物ノ名ハ極ク簡單ニ、喬木トカ灌木トカ説明シテキルニ過ギナイ。時ニハ植物ヲ知ラナイタメニ大キキ間違ヲシテキルコトガアル。例ヘバ、上ノ *chasebúch* (W) ハ *Pandanus* ノ一種デアルト言ツテキル。KRAEMER モ元來ガ土俗學者デアアルシ、KUBARY ヤ McCLEUR ヤ LEDERMANN モ亦植物學者デハナイ。ソレ故ニソノ鑑定ハ全然間違ツテキルコトが多い。コウ言フ人々ノ寫音ヲ一ツ集メテ正シイ學名ニ當テルノハ、寫音ガ互ニ甚ダシク異ルノデ大イニ苦心ヲ要スル。

一方本格的ノ植物學者ハ土名ヲ左程重要視シテキナイノデ、ソノ蒐集ハ多少氣紛レデアアルコトヲ免レズ、統一シタ方法ニヨル寫音ハ未ダ試ミラレテキナイ。金平教授ハ *Pseudopinanga insignis* = 對シテ、土名カラ採用シテ、あかぼうやくレト命名サレタ。又同様ニ南洋群島植物誌ノ中デ他ノ多クノ植物ニツイテ、土名ヲトツテ假名書トシテ、和名ニ準ジテ用ヒラレタ。實際、*Pseudopinanga insignis* = 對スル眞ノ寫音ハ *cheboúch* = 近イモノデアアル。シカシコレトテモ音韻學的ニドノ程度迄正シイカ疑問デアアル。ココデ如何ニ寫音ガ困難デアアルカラ示スタメニ、南洋群島植物誌中ノ二三ノ例ヲ當ツテ見ヨウ。エルトート 及ビ カルタゴツト (*Pandanus aimiriikiensis*) ハ共ニ *chertochot* = 歸スルコトガ出來ルシ、グリチン 及ビ アガリチン (*Parinari glaberrimum*) ハ共ニ *charítém* = 歸スルコトガ出來ル。又 オンゴール (*Pandanus tectorius*) ハ實ハ鼻音ヲ含ンダ *choñgór* デアル。アムクラール (*Horsfieldia amklaal*) ハ實ハ *chamaklachel* デアル。パラオノ内地人ハ カマクラト 俗稱シテキルガ、コノ寫音ニヨツテ アムクラール ト連絡ガ付ク。カドブスング (*Crataeva speciosa*) 及ビ アダブスング エルケツト (*Ormosia calavensis*) ハ夫々 *chädebsungel* 及ビ *chädebsungel l ked* (即チ禿山ノ *Crataeva* ノ意) デ、互 = 連絡ガアルコトガ判ルシ、アラス (*pterocarpus palauensis*) ハ *las* (血ノ意) = 冠詞ガ着イタモノデ、樹皮ヲ傷ケタトキニ血赤色ノ液ヲ出スコトニ由來シテキルコトガ判ル。又 ケラルム (*Camptosperma brevipetiolata*) ハ *kelél a charm* 即チ「鳥ノ餌」ナル意ヲ有スル。オエス 及ビ アカウエス (*Rhus taitensis*) ハ共ニ *chaués* デアル。アンムイ (*Urandra ammui*) ハ實ハ *ngmui* = 冠詞 *a* ノツイタモノデアアル。カラビオア (*Alphitonia philippi*

nensis) ハ實ハ *chalebiob* デアルシ、*アビブツク* 又ハ *エベツブ* (*Heritiera littoralis*) ハ實ハ *chabibech* デアル。 *オゴルドヴィーサク* (*Ochrocarpus excelsus*) ハ *chodebisech* デアル。 *ケゲカツ* (*Lumnitzera littorea*) ハ實ハ *mekekád* デ痒イト言フ意デ、ソノ裏ニハ更ニ猥褻ナ意ガ隠サレテキル。 *メセグイ* (*Astronidium palawense*) ハ *mesegui* デアツテ *gui* 即チ *matagui* (*Melastoma polyanthum*) ニ似テ非ナルモノノ意デアル。コレハ恰モ *Canarium palawense* ヲ *mesecháues* ト言ツテ *chaues* 即チ *Rhus taitensis* ニ似テ非ナルコトヲ示シテキルノト同様デアル。 *カマリド*、*カマリダツカ* (*Cerbera manghas*) ハ *chameridech* デアル。 *エレロイ* (*Mussaenda sericea*) ハ實ハ *charecherói* デ他ニ *ger'regèrói* (K) *gargoróy* (KUB) ト綴ル人モアル。コノ様ナ例ヲ舉ゲレバ際限ガナイガ、今一ツ外國人ニヨル例ヲ附ケ加ヘヨウ。 *Ceiba pentandra* 及ビ *Gmelina elliptica* ハ *パラオ* デハ *kalngabard* ト言ハレル。コレハ「西方ノ」(或ハ *パラオ* ニトツテ昔ハ西方ガ唯一ノ外國ト考ヘラレタガ故ニ「外國ノ」トナル。)[樹木]ト言フ意デアル。コレヲ *McCleure* ハ *a-kulb ne-par-reth* ト綴ツテキル。ソノ寫音法ノ差ノ大キイノニ一寸驚カサレル程デアル。ココデー一寸注意シナケレバナラナイノハ、*パラオ語* ノ *d* ハ英語ノ *th* (時ニヨリ *ð* 又ハ *θ* トナル。)=非常ニ近イコトデアル。 *kerdikis* (*Eleocharis dulcis*)、*búoch* (*Areca catechu*) ヲ *McCleure* ハ夫々英人ラシク *eur-the-kiss*、*poo-a-ak* ト書イタ。コレヲノ多クノ實例カラシテ、土名ヲ假名書トシテ和名ニ準ジテ用ヒ、特ニ和名ヲ設ケテナイ方法ハカナリノ困難ヲ伴フコトガ判ル。特ニ我が南洋群島ニ於テハ日本人ノ數ガ既ニ島民ヲ凌駕シキル状態デアルカラ、南洋ノ植物ニツイテ、土名トハ全然別個ニ日本式ニ(大和ブリニ)名ヲ定メル方ガ無難デアルト思フ。

植物ノ土名ノ嚴密ナ意味ノ寫音ハ一先ツ言語學者ノ將來ノ研究ニ任セテ置ケバヨイト思フガ、近似ノ寫音デ實用ニナル程度ノ土名蒐集ハ勿論非常ニ重要デアル。ト言フノハ彼等島民ハ所謂「文化生活」ヲ營ンデキル日本人トハ違ツテ、今モ尙野生植物ヲ生活ノ必需品トシテ居、ソレニ對スル正確ナ知識ナシニハ劣敗者トナルコトヲ免レナイ。彼等ガソレニ親シミ、ソレヲ利用シ得ル程度ハ到底文明人ノ思ヒモ及バナイ所迄達シテキル様デアル。其故彼等ノ植物ニ對スル、特ニソノ用不用又ハ役向ニヨツテ區別スル知識ヲ利用スレバ、植物分類學者ト言ヘドモ重要ナ示唆ヲ受ケズニハ居ラレナイコトハ疑ヒナイ。ソレデ土名ヲ調べタ完全ナリストガ出來テ居レバ、現地ノ日本人ハソレニヨツテ、正シイ學名ヲ知り得ルシ、又植物學者ガ現地ヲ採集スルトキニハ土名ヲ以ツテ命ジテ、任意ノ植物ヲ取ツテ來サセルコトガ出來ルデアラウ。又土名ノ分析ニヨツテ、輸入經路ヲ知り得ルシ、言語學又土俗學ノ方面ノ資料ニモナル。コレハ *マリアナ* ノ *チャモロ語* ノ土名ヲ蒐集中ニ於ル小生ノ經驗デアルガ、土名ヲ研究スルコトニヨツテ、未ダ一度モ上陸シタコトノナイ。*グアム* 島ニ、米人スラモ報告シテキナイ 2 種ノ樹木ヲ、新タニ確信ヲ以ツテ報告出來ルコトニナツタ。又 *クサイ* 島ノ土名蒐集中ニハ、同地ノ *Pandanus* ノ一種ノ土名ハ明カニ *マーシャル語* デアルコトカラ示唆ヲ得テ調べ見タラ、コノモノハ *マーシャル* 群島カラノ輸入品デ家ノ附近ニノミ栽培サレテ食用ニ供セラレテキルコトガ判明シタ。

大體以上ノ様ナ考ヘニヨツテ小生ノ2回ノパラオ群島内ノ旅行中ニ、島民カラ直接ニ聞イタ土名ヲ基トシテ、今迄ノ文獻ニ一度デモ出タ土名ヲ出來ルダケ蒐集シ、一定ノ方法デ標準ニナル綴ヲ定メ、コレニ學名、和名ヲ對稱サセタ表ヲ作ツテ見タ。(「科學南洋」第3卷第3號以降ニ「パラオ群島ノ植物名」トシテ連載中)。ソノ中ニハ上ノ理由ニヨル多クノ新和名ヲ合ムガ、本項ノ初頭ニ述ベタ椰子ニ就テハ、次ノ様ニ提議シタ。

Glubiopsis palauensis みねかぜやし (峰風椰子)

Heterospathe palauensis いはねやし (巖根椰子)

Pseudopinanga insignis あかぶさやし (赤房椰子)